

新崎盛暉
(沖縄大学名誉教授、沖縄現代史)

石山久男
(元・歴史教育者協議会委員長)

井上勝生
(北海道大学名誉教授、幕末・維新史)

梅林宏道
(核・安保問題研究、ピース・テボ創立者)

大城将保
(作家、沖縄戦研究者)

笠原十九司
(都留文科大学名誉教授、中国近代史)

桂敬一
(元東大教授、マスメディア論)

金平茂紀
(TBS「報道特集」キャスター)

川田文字
(ノンフィクション作家)

轡田隆史
(元朝日新聞論説委員、エッセイスト)

古関彰一
(獨協大学名誉教授、憲法学・憲法制定史)

高嶋伸欣
(琉球大学名誉教授、社会科教育)

高嶺朝一
(ジャーナリスト、元琉球新報社長)

俵義文
(子どもと教科書全国ネット21・事務局長)

長元朝浩
(沖縄タイムス社客員論説委員)

前田哲男
(軍事史研究、自衛隊・安保問題ルポ・評論)

安川寿之輔
(名古屋大学名誉教授、日本近代思想史)

山田朗
(明治大学教授、日本近代史)

渡辺賢二
(元高校日本史教諭、陸軍登戸研究所を擁護・調査)

「たいへん面白い」問題提起の書

中塚明 奈良女子大学名誉教授、日本近代史

小さな島国、日本は、明治維新からわずか三〇四〇年で世界の列強の一つになりました。そのとき日本人の心に注ぎ込まれたのが「神権天皇制」でした。わかりやすくいえば、世界を相手に戦争するまでになった、あの太平洋戦争の時期に、「日本ヨイ国、キヨイ国、世界ニツノ神ノ国」とさかんに言いふらされた、その思想です。
第二次世界大戦の敗北で「日本帝国」が崩壊し、この思想も総崩れになったかというところではありませぬ。敗戦から七〇年余、「明治百五十年」のかけ声と共に、大手をふっていま復活しようとしています。
この「神権天皇制」を軸とした「日本のナショナリズム」の成り立ち、発展、変ぼう、そして今日にいたる、その歴史

を、日本ではじめて系統的に明らかにしたのがこの本です。原稿の一部を読ませてもらいましたが、「たいへん面白い」というのが第一印象です。
「面白い」という意味は、しっかり学界の研究状況を伝えると共に、編集者であるとともにジャーナリストとして活躍してこられたその視点で、するどく問題を提起し、論点を明らかにし、なにが問題か、それが的確にわかる叙述になっている、だから面白いのだと思います。
著者は、この本の結びとして、今日の日本の民主主義の危機的な状況をただすために、「日本近現代史の総学習運動」を提案されています。大賛成です。この本がひろく読まれることを心から願っています。

歴史認識力を鍛えてくれる本 大日方純夫 早稲田大学教授、日本近代史

「自国中心」が世界的に台頭し、日本でも「日本」を鼓吹する流れがあらわになっています。一体、ナショナリズムとは何なのか。日本ではどのような現れ方をしてきたのか。それは天皇・天皇制とどうかかわるのか。多くの人がとが強い関心をもち、疑問を抱いてきたテーマです。
研究レベルでも解明の必要性・切実性は強く意識されてきました。問題の大きさから手控えたり、個別的だったりして、体系的・系統的な追究がされてきませんでした。そこで、長年、編集者として、出版人として、本を世に出すと同時に、「自身も本を書いて社会に対して発信・発言してきた梅田正己さんが、ずっと胸につかえていたこのテーマと格闘し、精魂込めて書き上げたのが本書です。」

この本の魅力は、わかりやすい言葉で語りかけ、問いかけながら、それに対する著者の解釈や解答が鮮やかに提示されている点にあります。しかも、思いつきや独断ではなく、史料・文献や研究を踏まえて論じられています。
読者は、本書を通じて「日本ナショナリズム」の成り立ち、と、生態を探ると同時に、精彩に富んだ闊達な筆の運びに誘われて、自らの着想力や問題発見力を豊かにし、著者の解釈・見解と向き合うことによって、歴史認識力を鍛えていくことができます。
近代日本のあり方を解明するために不可欠なだけでなく、戦後日本、とくに、今、を考えるための重要テーマに挑戦した壮挙として、本書を推薦します。

日本ナショナリズムの歴史

「神国思想」の展開と明治維新

四六判・並製・三六〇頁予定



- I 日本ナショナリズムの源流
- II 国学と水戸学にみる初期ナショナリズム
- III 日本史の中の天皇制
天皇制はどうかくも長く存続できたのか
- IV 幕末の動乱と天皇(制)復権への道程

日本ナショナリズムの歴史

「神権天皇制」の確立と帝国主義への道

四六判・並製・三六〇頁予定



- V 近代天皇帝制国家の構築とナショナリズム
討幕派はなぜ「神権天皇」を求めたのか／新しい天皇像の創出と廃藩置県／神国ナショナリズムと「征韓論」／自由民権運動とナショナリズム／天皇巡幸と軍人勅諭／大日本帝国憲法と教育勅語／歴史学の挫折——久米邦武事件／日清戦争とナショナリズムの沸騰
- VI 福沢諭吉にみるナショナリズム形成の軌跡
日本独立への渴望と執着／福沢の「日本論」と「西洋諸国観」の転換／「アジアの盟主」への道／福沢「天皇制論」成立の軌跡／朝鮮への干渉から「脱亜論」へ／日清戦争と福沢ナショナリズムの確立

《各巻の構成》

日本ナショナリズムの歴史 全4巻

定価：(全巻均一)3,024円(税込)

日本ナショナリズムの歴史

「神話史観」の全面展開と軍国主義

四六判・並製・三六〇頁予定



- VII 神国ナショナリズムと軍国主義日本
日清戦争から満州事変まで／軍による「軍国主義」宣言「陸軍パンフレット」／美濃部博士バッシングから「国体明徴」運動へ／文部省「国体の本義」の神話史観／矢内原忠雄教授を東大から追放したのも／国家総動員法と津田左右吉「神話研究」の抹殺／日本軍国主義思想の極点——文部省「臣民の道」と陸軍省「戦陣訓」／国民学校(旧小学校)をつらぬいた教育思想／軍国主義がつくりあげた人間像
- VIII 大日本帝国の崩壊と天皇制のゆくえ
対米英戦争の緒戦と結末／敗戦で問われた天皇制／「神権天皇」から「象徴天皇」へ／「人間宣言」と全国巡幸

日本ナショナリズムの歴史

国家主義の復活から自民党改憲草案まで

四六判・並製・四〇〇頁予定



- IX よみがえる日本ナショナリズム
新たな国づくりへの出発／米国の対日政策の転換と日本再軍備への歩み／「日の丸」君が代「問題」の始まり／再軍備の推進と吉田首相の「愛国心論」教科書問題の起り／「期待される人間像問題」／「明治百年」と「紀元節」の復活「元号法」／日米安保体制の進展と自衛隊の増強／再燃した教科書問題と「日の丸」「君が代」問題／戦後五〇年決議から国旗・国歌法、教育基本法の改変まで／自衛隊の変質と日米軍事一体化の急進／戦後保守イデオロギーの集大成——自民党改憲草案
- X 日本ナショナリズムと歴史認識

2017年9月初旬

2017年9月初旬

2017年10月初旬

2017年10月初旬